

土木技術者の信条

1. 土木技術者は国運の進展ならびに人類の福祉増進に貢献しなければならない。
2. 土木技術者は技術の進歩向上に努め、あまねくその真価を発揮しなければならない。
3. 土木技術者は常に真摯な態度を持ち徳義と名誉とを重んじなければならない。

土木技術者の実践要綱

1. 土木技術者は自己の専門的知識および経験をもって国家的ならびに公共的諸問題に対して積極的に社会に奉仕しなければならない。
2. 土木技術者は学理、工法の研究に励み、進んでその結果を公表して技術界に貢献しなければならない。
3. 土木技術者は国家の発展、国民の福利に背戻するような事業を企図してはならない。
4. 土木技術者はその関係する事業の性質上、特に公正で清廉をととび、かりそめにも社会疑惑を招くような行為をしてはならない。
5. 土木技術者は工事の設計および施工について経費節約あるいはその他の事情にとらわれて、従業者ならびに公衆に危険をおよぼすようなことをしてはならない。
6. 土木技術者は個人的利害のために、その信念を曲げたりあるいは技術者全般の名誉を失墜するような行為をしてはならない。
7. 土木技術者は自己の権威と正当な価値を毀損しないように注意しなければならない。
8. 土木技術者は自己の人格と知識経験とによって、確信ある技術の指導に努めなければならない。
9. 土木技術者はその関係する事業に万一違法であるものを認めたときはその匡正に努めなければならない。
10. 土木技術者はその内容が疑わしい事業に関係しまたは自己の名義を使用させるようなことがあってはならない。
11. 土木技術者は施工に忠実で事業者に背かないようにしなければならない。

備考：本信条および実践要綱をもって土木技術者の相互規約とする。

土木技術者の信条・実践要項（誰が、何のために作成したか）

土木技術者の信条・実践要項は、「我が国に於て未だ技術者相互の規約、例へば『エンヂニヤリングエシックス』の如きものなきを遺憾とし之が作成に関し調査研究せん」とす」目的で、昭和11年5月設置の土木技術者相互規約調査委員会（委員長・青山上）で、①土木技術者の使命の確認、②土木技術者の品位の向上、③土木技術者の権威の保持の目的で、アメリカに於ける技術者相互間の規約を参考としつつ、日本の国情に則した草案を蔵重長男委員が中心となって作成し、この3項目の主旨を具体化して、国情に適合する信条、実践要項として昭和13年5月（土木学会誌第24巻第5号）に発表したものである。